

技術・家庭科（家庭分野）学習指導案

題材名「快適で安全な住まい方」

令和5年10月6日（金） 第5校時 2-2教室
沼田市立沼田南中学校 2年2組 指導者 小林 美緒奈

I 題材の構想

1 題材の目標及び生徒の実態

	目標	生徒の実態
知識及び技能	・家族の生活と住空間との関わり、住居の基本的な機能、家庭内の事故の防ぎ方など家族の安全を考えた住空間の整え方について理解する。	・小学校では住まいの主な働きと快適な住まい方について学習し、理解している。安全な住まい方についての家族の年齢構成に合わせて整え方が変わることを理解させる必要がある。
思考力、判断力、表現力等	・家族の安全を考えた住空間の整え方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。	・自分の住まいの安全について、家族と話し合ったことがあると答えた人は約6割であった。家族に合わせ様々な場面を想定した住空間の整え方を考え、共有することで実践につなげる必要がある。
学びに向かう力、人間性等	・家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、住居の機能と安全な住まい方について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとする。	・自分の住まいについて、自分の部屋の掃除や整頓など主体的に快適に整えることができている生徒は約7割であった。一方で、家族や地域のために主体的に快適な住まいにしようとして実践している人は少ないため、課題の解決に向けて具体的に考えさせていく必要がある。

2 評価規準

知識・技能	・家族の生活と住空間との関わり、住居の基本的な機能について理解している。 ・家庭内の事故の防ぎ方など家族の安全を考えた住空間の整え方について理解している。
思考・判断・表現	・家族の安全を考えた住空間の整え方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	・家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、住居の機能と安全な住まい方について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

3 指導と評価の計画

※「資料1 問題解決的な学習となるよう工夫した指導と評価の計画」を参照

II 本時の学習（6／8）

- ねらい 地域で起こりうる災害（水害・土砂災害）を想定し、家族構成に合わせ具体的な避難の方法を考えることを通して、家族の安全を考えた住まい方を工夫することができる。

2 展開

主な学習活動、	主な発問	指導上の留意点
生徒の反応・発言等〔S〕	☆ICT活用<分類>	
1 前時の学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。（5分） <めあて> 災害時にだれもが安全に避難するためのポイントや方法を考えよう。	☆前時の復習を、スライドを通して確認する。（可視化）	○本時の学習へ見通しをもって取り組みように、既習事項を提示する。

<p>2 グループ（疑似家族）ごとに安全な避難を考えることを確認する。（5分）</p> <p>S：前回の授業で、指定避難先を確認したから、1番近い場所に避難すればいいかな。</p>	<p>☆避難場所や避難のタイミング、避難経路をまとめやすくなるよう、スライドの例を提示する。（可視化）</p>	<p>○グループ活動をスムーズに進めることができるように、どこにどのようにいつ避難するかを視点を提示する。</p> <p>○避難場所や避難のタイミング、避難経路のそれぞれの理由を班で話し合うように、全体に促す。</p>
<p>3 グループで話し合い、安全な避難の方法を考え、ワークシートやロイロノートにまとめる。（15分）</p>	<p>☆防災マップを確認しながら、災害のリスクと安全な避難の方法について考える。（データ活用）</p>	<p>○既習事項を生かして考えることができるように、家族構成（高齢者・乳幼児の有無）、家の立地（川沿い・斜面）、移動手段（車の有無）を考慮するよう助言する。</p>
<p>「どのように災害時に行動すれば家族の誰もが安全に避難できるのか。」</p>		<p>◎（○）評価項目 （思考・判断・表現）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートやロイロノートの記述内容から、「家族構成に合わせた具体的な避難の方法について考え、家族の安全を考えた住まい方を工夫することができるか」を評価する。
<p>S：乳幼児の安全の確保のために、レベル3の時に避難しようかな。</p> <p>S：中心部に住んでいて土砂災害や洪水のリスクがなく、歩行困難な祖母もいるので指定避難先に避難しない方が良いかな。</p>	<p>☆防災マップに避難先への避難経路を記入したり、避難のタイミングを示したりして、ロイロノートにまとめる。（思考の整理）</p>	<p>○全体で意見が共有できるように、自分の班との相違点について班で話し合ったことをロイロノートのカードにまとめるよう促す。</p> <p>○自分の班と他の班との相違点にさらに気づくことができるよう、提出されたカードをモニターやタブレットに映して提示する。</p>
<p>4 自分の班と他の班の発表資料を比較し、相違点についてグループで話し合い、発表をする。（15分）</p> <p>S：共通点は非常用持ち出し袋の中身は食料や水の優先順位が高いことで、相違点は高齢者がいたので、警戒レベル2の時に早めに避難していること。</p>	<p>☆自分のグループとの相違点について話し合う。（比較）</p> <p>☆自分のグループとの相違点をカードにまとめ、全体で共有する。（共有）</p>	<p><まとめ> 災害時安全に避難するには、家族構成に合わせて非常用持ち出し袋や避難先、避難のタイミング、避難経路などを考えることが大切である。</p>
<p>5 自分や家族が避難することを想定し、避難方法について振り返る。（10分）</p>		<p>○次時の学習につながるように、自分の家族を想起してワークシートに記入するよう促す。</p>
<p><振り返り></p> <p>S：災害時の避難のタイミングや避難方法をグループで話し合ったり、他のグループの発表を聞いたりして、水害の時には川の近くを避けて避難することや、高齢者や幼児がいた場合には警戒レベルが早いうちに避難することなど家族に合わせた安全な避難方法を考えることができた。私の家族には配慮する家族はいないけど、ペットがいて移動するのに時間がかかると思うので、レベル2か3で避難したい。また、近くに祖父母が住んでいるので事前に避難経路を一緒に確認したり、高齢者に配慮した非常用持ち出し袋を用意したりするなど、安全な住まい方についてもう一度考えたい。</p>		

問題解決的な学習となるよう工夫した指導と評価の計画（全8時間計画）

過程	時間	○ねらい・ めあて	・学習活動	◇評価規準〈方法〉○指導に生かす評価 ●評定に用いる評価		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
つかむ	1	○住まいに関わる問題を見だし、課題を設定し、学習計画を立てることができる。	・住まいに関する問題をキーワードであげ、同じ意見同士でまとめ題材の課題を設定し、学習の計画を立てる。		●家族の安全を考えた住生活の整え方について、問題を見だし課題を設定している。(ワークシート)	
	題材の課題：家族だれもが健康・快適・安全に住み続けるようにするためには、どのような住まい方をしたらよいだろうか。					
追究する	2	○日本の住まいの変化や快適な室内環境について理解することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 日本の伝統的な住まいから現在の住まいへの変化や気候に合わせた住まいの工夫についてまとめる。 洋式と和式の住まいの特徴についてまとめ、違いを比較する。 快適な室内環境の条件や整え方についてまとめ、自分の家庭における健康で快適な室内環境の整え方について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本の気候に合った伝統的な住まいの工夫や和式、洋式のそれぞれの特徴について理解している。(ワークシート・ロイロノート) 快適な室内環境の条件や整え方について理解している。(ワークシート) 		●住居の機能と安全な住まい方について、課題の解決に向けて主体的に取り組もうとしている。(ワークシート)(行動観察)(ロイロノート)
	3	○住まいの役割を理解し、や住まいの空間と家族の生活行為との関わりについて考えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの生活を振り返りながら、住まいの役割について考えさせる。 模擬家族をもとに、住まいの空間と生活行為との関わりについて考える。 模擬家族をもとに、快適な住空間となるための部屋の配置を考える。 	●住まいの基本的な機能について理解している。(ワークシート)	●住まいの空間と生活行為との関わりをふまえて、部屋の配置を考え、工夫することができる。(ワークシート・ロイロノート)	
	4	○家族の安全を考えた住空間の整え方について理解することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ヒヤリハットを用いて整理し、改善策についてグループで話し合う。 自分の家庭を振り返り、家庭内事故が起きそうな場所とその改善策をまとめる。 	●家庭内事故を防ぎ方など家族の安全を考えた住空間の整え方について理解している。(ワークシート)		

追 究 す る	5	○自然災害に備え、家族の安全を考えた住空間の整え方を理解し、家族構成などを考慮した必要な災害の備えを考え、工夫することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害に備え家族の安全を考えた住空間の整え方についてまとめる。 ・模擬家族を用いて、災害時に非常用持ち出し袋に何が必要かグループで話し合う。 ・沼田市のハザードマップを活用し、避難先や起こりうる自然災害を確認し、防災マップを用いて避難のタイミングについて学習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●自然災害に備えた住空間の整え方について理解している。 ○ハザードマップを活用し、自分の住んでいる地域に起こりうる自然災害や避難先について知ることができる(ワークシート) 	○ハザードマップを活用し、自分の住んでいる地域に起こりうる自然災害や家族構成、避難のタイミング等を考慮して、非常用持ち出し袋の中身について考え、工夫することができる。(ワークシート・ロイロノート)	●住居の機能と安全な住まい方について、実践を評価し、よりよいものに改善しようとしている。(ワークシート・行動観察)
	6	○地域で起こりうる災害(水害・土砂災害)を想定し、家族構成に合わせた具体的な避難の方法を考えることを通して、家族の安全を考えた住まい方を工夫することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬家族での災害時における備えや避難経路などをスライドにまとめ、全体で共有する。 ・各班の発表や前時までの授業内容等をふまえて、自分の家庭の災害への安全対策を考える。 		●家族構成に合わせた具体的な避難の方法について考え、論理的に表現することができる。(ワークシート・ロイロノート)	
	7	○自分の住まいの健康・安全・快適プランを工夫することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・課題とその解決策についてグループで発表し、検討したことを訂正する。 		●課題の解決に向けて自分の住まいの健康・安全・快適プランを考え、計画を工夫している。(計画・実践レポート)	
家庭実践○自分の住まいの健康・安全・快適プランを家庭で実践する。						
ま と め る	8	○我が家の健康・安全・快適プランの実践を発表し合い評価・改善し、これまでの学習の振り返りや今後の生活に生かしたいことをまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・実践の発表会をふまえて、自分の健康・安全・快適プランの実践を振り返り、今後に向けての改善策を考える。 ・これまでの学習や自分の家庭の実践をふまえて、今後の生活に生かしていきたいことをまとめる。 		<ul style="list-style-type: none"> ●家族の安全を考えた住生活の整え方について、実践を評価したり、改善したりしている。(計画・実践レポート) ●家族の安全を考えた住生活の整え方について、課題解決に向けた一連の活動について考察したことを論理的に表現している。(ワークシート) 	●安全な住まい方について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。(ワークシート・行動観察)

授業におけるICTの活用計画

1 題材 快適で安全な住まい方 (B.衣食住の生活)

2 本時のねらい (6/8)

地域で起こりうる災害(水害・土砂災害)を想定し、家族構成に合わせて、具体的な避難の方法を考え、工夫することができる。

3 本時におけるICTの活用

○ロイロノートの思考ツールを活用し、非常用持ち出し袋の中身を考える。【表現】

・ロイロノートのダイヤモンドグラフを活用し、話し合い活動を通して優先度が高い順に非常用持ち出し袋の中身をまとめる。

思考ツールを活用し、考えを可視化する

- 思考ツールを活用させることで、非常用持ち出し袋に必要な物や優先順位等が一目で理解することができる。
- グループで作成したダイヤモンドグラフを提出箱に提出させ、回答内容を共有することで他グループ(模擬家族)の非常用持ち出し袋の内容との違いに気づくことが出来る。

○各グループの発表資料を共有・比較しながら安全な避難の方法について検討する。【協働での意見整理】

- ・本時の課題を把握し、避難場所、避難経路、避難のタイミングをグループ(模擬家族)ごとに話し合い、発表資料としてまとめる。
- ・ロイロノートの提出箱に提出された発表資料を共有し、資料を見ながら発表を聞く。

発表資料を共有・比較しながら理解を深める

- それぞれのグループ(模擬家族)で考えた家族が安全に避難する方法を共有し、共通点や相違点を踏まえて自分のグループ(模擬家族)と比較をすることで本時の課題への理解を深められるようにする。
- ロイロノートの画面配信を行うことで、それぞれのグループ(模擬家族)との比較をまとめやすいようにする。

○本時のまとめ、振り返りを行う。【思考を深める学習】

- ・ロイロノートの提出箱に提出された各グループの発表資料を確認する。

グループワークの内容を参考に、振り返りを行う

- 自分の家庭において災害時にできることをより具体的に表現できるように各グループ(模擬家族)の発表の内容を共有し、自己の振り返り(ワークシート)に生かせるようにする。

授業におけるICTの活用計画

1 題材 快適で安全な住まい方 (B. 衣食住の生活)

2 本時のねらい (2/8)

異なる家族構成の模擬家族をもとに住空間の使い方を考える活動を通して、家族それぞれの住生活に対する思いや願いを共に尊重しながら調整して住空間を整える必要があることを理解できる。

本時におけるICTの活用

○各グループの発表資料を共有・比較しながら、家族それぞれの住空間に対する思いや願いにあった住空間の使い方について検討する。【協働での意見整理】

- ・本時の課題を把握し、家族誰もが快適に暮らせる住空間の使い方をグループ（模擬家族）で話し合う。
- ・ロイロノートで提出された発表資料を共有し、発表を聞く。

○家族みんなが快適で安全に住めるよう住空間の使い方を考えよう。

1班 <家族構成>

母：趣味は茶道。近所の人と休日に話したりお茶をしたい。

父：趣味は料理。家族に料理をふるまいたい。
Aさん（中学生）：趣味はゲーム。友達をたくさんよんで遊びたい。

祖母：趣味は裁縫。近頃足腰が弱くなり、移動が大変。

2班 (6、5歳)

兄弟姉妹の父が、専業主婦を希望する。専業主婦になるように生活スタイルを調整する。

ママとパパは、専業主婦になるように生活スタイルを調整する。

ママとパパは、専業主婦になるように生活スタイルを調整する。

ママとパパは、専業主婦になるように生活スタイルを調整する。

ママとパパは、専業主婦になるように生活スタイルを調整する。

ママとパパは、専業主婦になるように生活スタイルを調整する。

ママとパパは、専業主婦になるように生活スタイルを調整する。

ママとパパは、専業主婦になるように生活スタイルを調整する。

ママとパパは、専業主婦になるように生活スタイルを調整する。

ママとパパは、専業主婦になるように生活スタイルを調整する。

ママとパパは、専業主婦になるように生活スタイルを調整する。

ママとパパは、専業主婦になるように生活スタイルを調整する。

ママとパパは、専業主婦になるように生活スタイルを調整する。

ママとパパは、専業主婦になるように生活スタイルを調整する。

ママとパパは、専業主婦になるように生活スタイルを調整する。

ママとパパは、専業主婦になるように生活スタイルを調整する。

ママとパパは、専業主婦になるように生活スタイルを調整する。

ママとパパは、専業主婦になるように生活スタイルを調整する。

ママとパパは、専業主婦になるように生活スタイルを調整する。

ママとパパは、専業主婦になるように生活スタイルを調整する。

ママとパパは、専業主婦になるように生活スタイルを調整する。

ママとパパは、専業主婦になるように生活スタイルを調整する。

ママとパパは、専業主婦になるように生活スタイルを調整する。

ママとパパは、専業主婦になるように生活スタイルを調整する。

ママとパパは、専業主婦になるように生活スタイルを調整する。

ママとパパは、専業主婦になるように生活スタイルを調整する。

ママとパパは、専業主婦になるように生活スタイルを調整する。

ママとパパは、専業主婦になるように生活スタイルを調整する。

ママとパパは、専業主婦になるように生活スタイルを調整する。

ママとパパは、専業主婦になるように生活スタイルを調整する。

ママとパパは、専業主婦になるように生活スタイルを調整する。

ママとパパは、専業主婦になるように生活スタイルを調整する。

ママとパパは、専業主婦になるように生活スタイルを調整する。

ママとパパは、専業主婦になるように生活スタイルを調整する。

ママとパパは、専業主婦になるように生活スタイルを調整する。

ママとパパは、専業主婦になるように生活スタイルを調整する。

ママとパパは、専業主婦になるように生活スタイルを調整する。

ママとパパは、専業主婦になるように生活スタイルを調整する。

ママとパパは、専業主婦になるように生活スタイルを調整する。

ママとパパは、専業主婦になるように生活スタイルを調整する。

ママとパパは、専業主婦になるように生活スタイルを調整する。

ママとパパは、専業主婦になるように生活スタイルを調整する。

ママとパパは、専業主婦になるように生活スタイルを調整する。

ママとパパは、専業主婦になるように生活スタイルを調整する。

ママとパパは、専業主婦になるように生活スタイルを調整する。

ママとパパは、専業主婦になるように生活スタイルを調整する。

ママとパパは、専業主婦になるように生活スタイルを調整する。

ママとパパは、専業主婦になるように生活スタイルを調整する。

ママとパパは、専業主婦になるように生活スタイルを調整する。

ママとパパは、専業主婦になるように生活スタイルを調整する。

ママとパパは、専業主婦になるように生活スタイルを調整する。

ママとパパは、専業主婦になるように生活スタイルを調整する。

発表資料を共有・比較しながら理解を深める。

- ロイロノートの画面配信を行うことで、それぞれのグループ（模擬家族）で考えた住空間の使い方を共有し、比較しやすいようにする。
- 発表を聞き、自分のグループと比較して共通点や相違点を見つけることで、家族の状況や願いを大切にして住空間の使い方を工夫する必要があることに気付かせる。

○本時のまとめ、振り返りを行う。【思考を深める学習】

- ・ロイロノートに提出された各グループの発表資料を確認する。

グループワークの内容を参考に、本時のまとめ、振り返りを行う。

- 各グループ（模擬家族）の発表内容を確認することで、自分の家庭に置き換えて、家族誰もが快適に暮らすためにどのような工夫ができるか、どのようなことを大切にしたいかを考えやすくし、自己の振り返りに生かせるようにする。

授業におけるICTの活用計画

1 題材 災害への備え (B 衣食住の生活 [住])

2 本時のねらい (6 / 8)

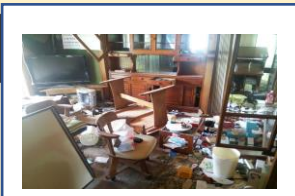
地震が起きたときに家の中にいた場合を想定し、グループで住まいの地震対策について考える活動を通して、安全な住まい方について表現することができる。

3 本時におけるICTの活用

○地震体験動画を視聴し、地震が起きた際に家の中にいた場合を想定し、問題を見い出させる。【思考・表現】

- ・家の中にいる場合を想定した地震体験動画を視聴し、地震が起きた際に家の中にいた場合を想定させる。
- ・「家具が倒れた」「食器が割れた」等、何が起きていたかを確認させる。

例

**動画を視聴し、地震のイメージを膨らませる**

- 家の中で地震が起きたことを想定した動画を視聴することで、地震が起きたときに家の中にいるとどうなるかのイメージすることができる。
- 動画を視聴し、家の中で何が起こっていたかを全体で共有し、課題を設定する。

○ジャムボードを活用し、住まいの地震対策でできることを話し合い、全体共有を行う。【協働での意見整理】

- ・ジャムボードを活用し、それぞれの住まいの地震対策でできることを打ち込み、グループで共有する。
- ・各グループの地震対策を発表し、共通点や相違点を踏まえて自分のグループと比較をすることで、本時の課題への理解を深められるようにする。

**意見交流・全体共有を迅速かつ適切に行い、理解を深める。**

- それぞれのグループごとにジャムボードを活用し、個人で住まいの地震対策でできることを打ち込み、意見交換をする。
- 全体共有の際は、モニターにジャムボードの画面を提示し、それぞれのグループとの比較をまとめやすいようにする。

○安全対策の全体共有を参考に、防災シュミレーターを活用し、家の中での地震発生時の行動について考える。【思考を深める学習】

- ・【[防災シュミレーター](https://www.bousai.go.jp)】[震度6強体験シミュレーション：防災情報のページ - 内閣府 \(bousai.go.jp\)](https://www.bousai.go.jp)。
- ・内閣府の防災シュミレーターを活用し、自分が家の中にいるときに地震が起きた際にどのような行動をするかのシュミレーションを行う。

**全体で共有したの内容を参考に、シミュレーションを行う**

- 自分が家の中にいるときに地震が起きた際にどのような行動をするかのシュミレーションを行うことで、自己の振り返りに生かせるようにする。